

| | | | |
|---|-----------------|------|----|
| 講義名 | 対)教養特講 (経済のしくみ) | | |
| 担当教員 | 大住 康之 | | |
| 開講期・曜日・時限 | 前期 木曜日 5時限 | 授業形態 | 講義 |
| 履修開始年次 | 1年生 | 単位数 | 2 |
| 主題と概要 経済の仕組みはどのようなものかを、日本経済のデータを概観したうえで、経済の見方や考え方の枠組みを提供する経済学の入門レベルの学習を通じて理解を深めることを主題とします。 | | | |
| 到達目標 市場経済(ミクロ経済学)や経済全体の動き(マクロ経済学)といった経済の仕組みを理解するうえで基礎となる学習を通じて、経済問題について関心をもって考えることができるようになることを目標とします。 | | | |
| 提出課題 適宜指示する。 | | | |
| 課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック 適宜指示する。 | | | |
| 評価の基準 授業内に中間試験あるいはレポート試験を行う。評価は中間試験あるいはレポート試験、ならびに定期試験を通じて総合的に評価する。 | | | |
| 履修にあたっての注意・助言他 毎回の出席を心掛けて下さい。 | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|---------|-------------------------------------|--|
| 教科書 ・マンキュー入門経済学(第3版) | | | | N・グレゴリー・マンキュー | 東洋経済新報社 | | |
| プリント資料及び参考文献 適宜指示する。 | | | | | | | |
| 授業計画 以下の順に講義する。各章1-2回行う。 1. 経済の仕組みと経済学 第1章 日本経済 - データ概観 第2章 経済学の十大原理 2. ミクロ経済学・市場経済 第3章 市場における需要と供給の作用 第4章 消費者、生産者、市場の効率性 3. レポートテスト 4. マクロ経済学・経済全体の動き 第5章 国民所得の測定 第6章 生産と成長 第7章 貯蓄・投資と金融システム 第8章 総需要と総供給 5. まとめテスト | | | | | | | |
| 授業形態(アクティブ・ラーニング) | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> ア: PBL(課題解決型学習) | | <input type="checkbox"/> イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) | | <input type="checkbox"/> ウ: ディスカッション、ディベート | | <input type="checkbox"/> エ: グループワーク | |
| <input type="checkbox"/> オ: プレゼンテーション | | <input type="checkbox"/> カ: 実習、フィールドワーク | | <input type="checkbox"/> キ: その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合) | | | |
| 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間 <small>『準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間』 予習・・・教科書の該当範囲(上記「授業計画」を参照のこと)を読んで、内容を理解する必要があります。(2時間/回) 復習・・・教科書や配布するレジュメ等を参考にノートを作成するなどして、復習してください。(2時間/回)</small> | | | | | | | |
| 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 <small>知識を知識に転換することができる。論理的思考力を持った人材 ・ 課題発見・解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集、調査整理することができる(情報収集力) ・ 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる(情報分析力) と関連します。</small> | | | | | | | |
| 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述 中間試験を行った際には答案を返却し、答え合わせを通じて内容を深めるようにする。 | | | | | | | |
| 実務経験の有無及び活用 | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |